

## 第2学年国語科学習指導案

2年1組 32名 指導者 池野謙一郎

2年2組 31名 指導者 加藤 美穂

### 1 分科会提案

#### (1) 「よい学習」

低学年分科会第2学年の目指す「よい学習」とは、学びに集中し、「えっ、もう終わりですか。」とってしまう学習である。

#### (2) 「よい学習」を実現するための手だて

##### ①音読劇

本文を5つに分け、1時間ごとに1場面を読み取り、音読劇にしていく。場面ごとに、台詞から想像したり、行動から想像したりと、学習する場面にあつたためあてをたて、取り組めるようにしていく。単元の後半には、想像するための自分なりの方法をそれぞれが試せるようにしていく。自分たちの表現を試す場や、他のグループの表現を考え対話できる場を設定し、多様な表現や解釈に触れることができるようにする。多様な考えに触れることが場面を想像して読む力を高めることにつながると考える。教室ではなく、多目的室や体育館で学習することで、身振りや動きも付けて音読劇ができるようにする。動きを考えることで、想像がより膨らんだり、本文の根拠に気が付いたりすることができると思う。図工科で小道具を作るなど、音読劇を楽しむ環境も整えていく。

##### ②振り返りの設定

グループごとの活動が増えるため、児童自らが学習を価値付ける力が必要になる。以下の視点で振り返ることができるようにしていく。

(ア) 授業に対する前向きな姿勢（～ができた。～が良かった。～次もがんばりたい。）

(イ) 友達の音読劇を見て（～の動きが良かった。～のまねをしたいと思った。～だと考えた。）

(ウ) 文章の読み取りの工夫（～だからこんな動きにした。～だからこんな台詞を付け加えた。）

特に、(イ) や (ウ) の振り返りで友達の良さや文章から考えた工夫について書いている児童を授業の最初に取り上げることで、想像豊かに読む方法を身に付け、音読劇で表せるようにしたり、自分ごとで学習に取り組んだりできるようにしていく。

### 2 単元名「そうぞうしたことを 音読げきであらわそう」

教材名「お手紙」(光村図書 国語2年下)

### 3 教材観

「お手紙」は、がまくんとかえるくんの温かくもおかしい友情を描いた物語「ふたりはともだち」に収録されている最後のお話である。「お手紙」の前編で、がまくんを怒らせてしまったかえるくんが、がまくんにももらったボタンのジャケットを着てやや改まった様子でがまくんの家に出かけるところからお話は始まる。お手紙を待つ間の二人の間のやり取りや、内容を知っても一緒に手紙を待つ二人の様子など、場面ごとに、共感しやすい様子や、どのような想像をするのか楽しみなことが出てくる。繰り返し表現される「言いました」「たずねました」をどのように伝えるのか、登場人物3人はどのような性格かなど、児童なりに表現できることが多く、音読劇に合った教材文である。

#### 4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読することができる。(1)ク	・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ	・言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	◆「読むこと」において、各場面の登場人物の行動や様子が分かる言葉から想像して音読しようとしている。(1)ク	◆「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ ◆「読むこと」において文章を読んで感じたことや考えたことを伝えようとしている。C(1)カ	◆学習課題に沿って、進んで音読劇に取り組もうとしている。

#### 5 児童の実態

##### (1) 1組

「ふきのとう」の学習の始めでは、台詞を思い付けない児童が1/3程度いたが、読み取りや行動を想像する学習を繰り返すことで考えることができるようになってきた。「スイミー」の学習では、台詞を考えるということに自信がもてず、周りの子を真似て書く児童は3名になった。「ミリーのすてきなぼうし」を題材に、「題名」「作者」「登場人物」「いつ・どこ」「好きな場面・その理由」をまとめたときには、上記の3名は、「いつ・どこ」を自力で読み取ることができなかつた。場面の様子や登場人物の行動を想像し、好きな場面を選んだり、文章の内容と結び付けて感想をもつことにおいても差が出ている。

ペアを作って学習を行う際に、スムーズに学習に入れない児童が4名いる。うち2名は、上記に挙げた台詞を考えることに自信のない児童である。個の力に合わせて学習に参加し、表現をすることを目標に取り組ませ、少しずつできる感覚を味わわせたい。

##### (2) 2組

文学的な文章「ふきのとう」「スイミー」の学習では、登場人物や場面の様子から、台詞を考え、学習を生かしてお話ポスターをつくった。登場人物の言ったことやしたことに対して、自分で台詞を考えることのできる児童は、学級の6～7割程度である。一方、学習を重ねても場面にあった台詞を考えるのが難しく、文章で上手く表現できない児童もいる。

今回のように、自分たちで読み進めながら音読劇をつくりあげる学習は初めてである。また、グループ活動が苦手な児童もいる。グループ分けに配慮するとともに、苦手な児童もグループで劇をつくりあげることを通して、自分事として、学習に参加できるようにしていく。

## 6 指導計画

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
第1次	1	①これまでの文学的な文章の学習を思い出し、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容を想像させ、意欲がもてるようにする。</li> <li>・これまでの音読学習を想起させ、単元のめあてを設定する。</li> </ul> <p>◆これまでの音読学習を思い出し、学習の見通しをもととしている【態】☆観察・発言</p>
第2次	2 (2組本時) ・3 ・4 ・5 ・6 ・7 (1組本時)	<p>②～⑦ 第1～6場面でのかえるくんやがまくんの行動を具体的に想像しながら、音読劇をつくる。</p> <p>⑧音読劇発表会に向けて、全場面の練習をする。</p> <p>⑨グループごとにリハーサルをし、良いところを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発想を大切にしながら、想像を広げ、音読劇をつくりあげるようにする。</li> <li>・必要なグループには、本文を渡し、読み方(声の出し方など)や動き、台詞の追加などの音読の工夫を書き込めるようにする。</li> <li>・グループでそれぞれの音読劇を見合い、互いの音読劇の工夫について質問し、読みを深められるようにする。</li> <li>・毎時間の振り返りでは、音読劇の工夫やどの文章から工夫を考えたのかについて、詳しく書くことで、読みを深める。</li> </ul> <p>◆場面ごとの様子や登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを具体的に想像している。 【思】☆観察・記述・発言</p> <p>◆自分の考えたことを伝えようとしている。 【態】☆観察・記述・発言</p> <p>※2～7時間の中で、段階的に評価していく。</p>
第3次	8 ・9 ・10	<p>⑩音読劇を発表する。</p> <p>⑪単元全体を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の音読劇の工夫などを中心に感想を交流させる。</li> <li>・音読劇に取り組んだり、友達の音読劇を見て思ったことや考えたりしたこと、これからの学習に生かしたいことを振り返らせる。</li> </ul> <p>◆登場人物の行動や表情、口調、様子などを想像して音読している。【知】☆観察</p> <p>◆友達の音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝え合っている。 【態】☆発言・観察</p>

## 7-1 本時の学習（2年2組：2/10時間目）

### (1) 目標

第1場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像しながら、音読する。

### (2) 展開

	○学習活動 C：想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p>	<p>・前時の学習の振り返りをし、学習のゴール（見通し）をもたせる。</p>
<p>せりふを考えながら、お話をそうぞうして音読げきをしよう</p>		
展開 (26分)	<p>○グループごとに話し合い、音読劇をつくりあげる。〈わくわくタイム〉</p> <p>C:「うん、そうなんだ。」は、悲しいそうに言ったほうがいいね。</p> <p>C:「そりゃ、どういうわけ。」と、かえるくんがたずねるところは、不思議そうに、質問していることが分かるようにしよう。</p> <p>C:「いちどもかい。」は、驚いて、びっくりしていることが分かるようにしよう。</p> <p>C:二人とも悲しい気分で、玄関の前に腰をおろしているから、がっかりしていることが分かる動きや台詞を入れよう。</p> <p>○グループごとに音読劇を見せ合い、音読劇の工夫について質問し合う。〈みるなぜタイム〉</p> <p>C:「ああ。いちどもで、とても悲しそうな言い方だったのはどうしてですか。」</p> <p>C:「ぼく、もう家へ帰らなくちゃ、がまくん。というところで、かえるくんがすくっと立ち上がったのはなぜですか。」</p> <p>C:「かえるくんががまくんに尋ねるときに、驚いているのがよかった。」</p> <p>C:「玄関の前で腰をおろしているときに、がまくんとかえるくんが悲しそうなところをまねしたいです。」</p> <p>○学級全体で、音読劇の工夫について共有する。〈ふむふむタイム〉</p> <p>C:「玄関の前に腰をおろしているときに、悲しいことが分かる表情が良かった。」</p>	<p>・グループで本文のワークシートに、せりふや動きについて話し合い、メモする時間をとる。</p> <p>・話し合いが停滞しているグループには、教師が入り、本文からかえるくん、がまくんの行動を想像させる。</p> <p>・かえるくんやがまくん行動を想像し、音読劇で表せているグループを適宜、全体に紹介する。</p> <p>・本文を読み、実際に体を動かしながら登場人物の行動を想像できるよう、本文のワークシートにメモすることは必要最低限にさせる。</p> <p>・互いの音読劇を見て質問し合い、場面の様子や登場人物の行動について、想像を深められるようにする。</p> <p>・アドリブの良さやどうしてその様な表現方法にしたのかを伝え合うことで、グループの音読劇をよりよくできるようにする。</p> <p>・質問が難しい場合は、友達の音読劇を見て、まねしたいことや良かったところを伝えさせる。</p> <p>・かえるくんやがまくん行動を想像し、音読劇で表せているグループを全体に紹介する。</p>

	<p>C:「お手紙を待っているときに、がまくんのセリフを付け加えているのが良かった。」</p> <p>○もう一度、自分たちのグループで音読劇を練ります。〈パワーアップタイム〉</p>	<p>・話し合いが停滞しているグループには、見せ合ったグループで良かった動きや表情、台詞などをまねさせる。</p>
まとめ (14分)	<p>○振り返り</p> <p>○次回の学習の確認</p>	<p>・学習に対して前向きな姿勢や友達の音読劇を見て思ったことや考えたこと、本文から自分が想像したことなどを振り返らせる。</p> <p>◆第1場面の登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを具体的に想像している。</p> <p>【思】☆観察・記述・発言</p> <p>・次時に向けての意欲をもてるようする。</p>

(3) 具体的な児童の姿と目標を実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
場面の様子に着目して、登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを具体的に想像しながら、音読劇をつくっている。	登場人物のしたことや言ったことなど、登場人物の行動を基に、場面を想像して音読劇をつくっている。	誰が言った台詞か、前の場面ではどんな様子だったかを確認し、場面が想像できるようにする。 机間指導中の言葉掛けを想定し、内容の理解を促す。

(4) 板書計画

<p>⑤ ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ともだちの音読げきを見て考えたこと 思ったこと まねしたいこと</li> <li>・じぶんが音読げきでくふうしたこと そのりゆう</li> <li>・音読げきをつくった かんそう</li> </ul>	<p>④ パワーアップタイム</p> <p>もう一ど グループで話し合う</p>	<p>③ ふむふむタイム</p> <p>し合う</p>	<p>なぜ</p> <p>くふうしたところについて しつもん</p>	<p>みる</p> <p>おたがいのグループの音読げきを見合う</p>	<p>② みるなぜタイム</p>	<p>① わくわくタイム</p> <p>グループで話し合っつて音読げきをつくる</p>	<p>学習のながれ</p> <p>①め せりふを考えながら、お話をそうぞうして音読げきをしよう。</p>	<p>お手紙</p> <p>アーノルド・ローベル作</p> <p>だい一ばめん</p>
---	--	-----------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	------------------	---	--	---

(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

〈わくわくタイム〉

◎本文から登場人物の様子、口調、台詞を想像し、音読劇をつくりあげられるようにする。

・「そりゃ、どういうわけ。」とかえるくんが尋ねるところは、どんな言い方をすればいいでしょう。

- ・「いちどもかい。」と書いてあるので、驚いた表情をしているのですね。いいですね。
- ・「ぼく、もう家へ帰らなくっちゃ、がまくん。」のところで立ち上がったのですね。どうしてですか。
- ・「二人とも悲しい気分で、玄関の前に腰をおろしている」と書いてあるけど、二人でどんな話をしていたと思いますか。
- ・挿絵を参考にしながら、二人の座り方を工夫しているのですね。
- ・本文から、新しい台詞を考えていますね。

#### 〈みるなぜタイム・パワーアップタイム〉

- ◎互いの音読劇を見て質問し合い、場面の様子や登場人物の行動について、想像を深められるようにする。
  - ・自分たちの音読劇と比べてみてどうでしたか。同じだったり違ったりしたところを質問しましょう。
  - ・「ああ。いちども。」というところで、とても悲しそうな言い方をしたのはどうしてですか。
  - ・「毎日、ぼくのゆうびんうけは、空っぽさ。」のところで、不幸せな様子が伝わってきていいですね。

#### 〈振り返り〉

- ◎書けていない児童への支援をする。
  - ・他のグループのどんな台詞や動き、表情が良かったか、思い出して書きましょう。
  - ・本文のどこから自分の台詞や動きを考えたか思い出して書きましょう。
- ◎めあてに沿った振り返りを紹介して、考えを広げさせる。
  - ・友達の音読劇を見て、考えたことや思ったことについて書いていますね。
  - ・「〇〇ができた。」「〇〇が良かった。」「次はこうしたい。」と書いていますね。

## 7-2 本時の学習 (2年1組: 7/10 時間目)

### (1) 目標

手紙を待つ登場人物の行動や第6場面の様子を具体的に想像しながら、音読する。

### (2) 展開

	○学習活動 C: 想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ばめんをそうぞうして 音読げきであらわそう</p> </div>	<p>・前時の振り返りを紹介し、本時への学習の意欲を高めさせる。</p> <p>・本文を読み取って音読劇を行うために、想像するとは具体的にどのようなことか振り返りの掲示物などを使い確認させる。</p>
展開 (26分)	<p>○グループごとに話し合い、音読劇をつくりあげる。&lt;わくわくタイム&gt;</p> <p>C:「長いことまっていた」と書いてあるから、二人でずっと玄関の前に座っていたんじゃないかな。</p> <p>C:「4日たって」と書いてあるから、夜にかえるくんは一度家に帰るんじゃないかな。</p> <p>C:かたつむりくんは何日も歩いてきたから、へとへとでお手紙を持ってくるんじゃないかな。</p> <p>○グループごとに音読劇を見せ合い、音読劇の工夫について質問し合う。&lt;みるなぜタイム&gt;</p> <p>C: どうしてがまくんの「本当にお手紙が来るのかな。」という台詞を追加しているんですか。</p> <p>C:「どうしてかたつむりくんは疲れた様子でお手紙を渡しに来たんですか。」</p> <p>○もう一度、自分たちのグループで音読劇を練り直す。&lt;パワーアップタイム&gt;</p>	<p>・前の場面の音読劇を再現し、話の流れを確認する。</p> <p>・話し合いが停滞しているグループには、教師が入り、本文からがまくんとかえるくんの行動を想像させる。</p> <p>・前の場面をもとに登場人物の行動や様子を想像して、新しい台詞や動きを音読劇で表せているグループには、それを価値付けする言葉掛けをする。</p> <p>・互いの音読劇を見て質問し合い、場面の様子や登場人物の行動について、想像を深められるようにする。</p> <p>・アドリブの良さやどうしてその様な表現方法にしたのかを伝え合うことで、グループの音読劇をよりよくできるようにする。</p> <p>・見せ合ったグループで良かった動きや表情、台詞をまねることで、自分たちの音読劇をよりよくできるようにする。</p>

まとめ (14分)	○振り返り  ○次回の学習の確認	・学習に対して前向きな姿勢や友達の音読劇を見て思ったことや考えたこと、本文から自分が想像したことなどを振り返らせる。 ◆第6場面の登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを具体的に想像している。 【思】☆観察・記述・発言  ・次時に向けての意欲をもたせる。
--------------	------------------------	---

(3) 具体的な児童の姿と目標を実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら、音読劇をつくっている。	登場人物のしたことや言ったことなど、登場人物の行動を基に、場面を想像して音読劇をつくっている。	誰が言った台詞か、前の場面ではどんな様子だったかを確認し、場面が想像できるようにする。  机間指導中の言葉掛けを想定し、内容の理解を促す。

(4) 板書計画

お手紙

アーノルド・ローベル作

だい六ばめん

め ばめんをそうぞうして、音読げきであらわそう

学習のながれ

④ ふりかえり

- ・ともだちの音読げきを見て考えたこと 思ったこと まねしたいこと
- ・じぶんが音読げきでくふうしたこと そのりゆう
- ・音読げきをつくった かんそう

③ パワーアップタイム

もう一ど グループで話し合う

し合う

なぜ

くふうしたところについて しつもん

みる

おたがいのグループの音読げきを見合う

② みるなぜタイム

① わくわくタイム

グループで話し合っって音読げきをつくる

(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

〈わくわくタイム〉

◎本文から登場人物の様子、口調、台詞を想像し、音読劇をつくりあげられるようにしていく。

- ・「長いことまっていた。」と書いてあるので、二人で玄関の前に座って待っているのですね。いいですね。
- ・「4日たって」と書いてあるので、家に帰る動きを取り入れているのですか。
- ・4日たって、かたつむりくんは、どんな様子で手紙を持ってくるでしょう。
- ・お手紙が来たとき、がまくんとかえるくんは、どんな様子だったでしょう。
- ・4日間、がまくんとかえるくんは何をしていたのでしょうか。
- ・昨日、がまくんとかえるくんがどんな様子だったか、思い出して考えましょう。
- ・今までのお話をもとに、新しい台詞を考えていますね。

〈みるなぜタイム・パワーアップタイム〉

◎互いの音読劇を見て質問し合い、場面の様子や登場人物の行動について、想像を深められるようにする。

- ・自分たちの音読劇とくらべてみてどうでしたか。同じだったり違ったりするところを質問しましょう。
- ・かたつむりくんが、とても疲れた様子でお手紙を渡していていいですね。

〈振り返り〉

◎書けていない児童への支援をする。

- ・他のグループのどんな台詞や動き、表情が良かったか、思い出して書きましょう。
- ・本文のどこから自分の台詞や動きを考えたか思い出して書きましょう。〉

◎めあてに沿った振り返りを紹介して、考えを広げさせる。

- ・友達の音読劇を見て、考えたことや思ったことについて書いていますね。
- ・「〇〇ができた。」「〇〇が良かった。」「次はこうしたい。」と書いていますね。

/		/		/		/		/		/		
												<p>たい話のふりかえり</p> <p>○文しようから分かったこと</p> <p>☆友だちとたい話して分かったこと</p> <p>◇つぎの時間にしたいこと</p>